

長野県伊那谷におけるラミーカミキリの分布状況

四方 圭一郎*・井原 道夫**

Records of *Paraglenea fortunei* (Saunders) from the southern part of Nagano prefecture
Keiichiro SHIKATA* and Michio IHARA**

* 飯田市美術博物館 〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655
** 伊那谷自然友の会 〒395-0004 長野県飯田市上郷黒田754

長野県伊那谷におけるラミーカミキリの分布について調査した。その結果、下伊那郡の9市町村31地点で成虫確認もしくは標本の確認ができた。現在のところ上村および飯田市付近が、本種の分布の北限ラインだと考えられた。

キーワード ラミーカミキリ, 分布, 長野県, 伊那谷

1. はじめに

ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (Saunders)は、明治時代に中国から九州に入ってきた帰化昆虫と考えられている種類である。その後、次第に分布を東へのばし、1940年代には、四国、山陽、兵庫、愛知、神奈川の各地に分布するようになった(大野1985)。現在も分布を拡大していると考えられ、ここ数年では、山梨県、東京都、埼玉県、千葉県などへの分布拡大が、報告されている。(和田1996, 和田1997, 平井1997, 森川1998他)。

長野県では1992年7月11日に天龍村伊那小沢駅で電灯に飛来した個体が採集され、その後近くのカラムシ群落周辺で多数の個体が採集されたのが、最初の報告である(吉沢1992)。

筆者らは1994年より長野県南部の伊那谷において、断続的な本種の分布調査を行ってきた。ここではこれまで得られた調査結果をまとめ、長野県内での本種の分布の現況について報告する。

2. 伊那谷における分布の現況

1998年までに得られた伊那谷における本種の分布図と採集データを、図1、表1に示す。下伊那郡の9市町村(飯田市、阿南町、天龍村、泰阜村、下條村、南信濃村、上村、根羽村、阿智村)で成虫の採集および既存標本による分布の確認ができた。確認地点は伊那谷南部地域に偏在しており、その分布の偏りから本種が静岡県および愛知県から長野県内へ進入したことは間違いないと思われる。

成虫は、主に道路や畑地周辺に自生しているカラムシの葉上やその周辺でみられ、カラムシの葉や若い茎を盛んに後食しているのが観察された(図2)。採集地点の標高は300m~960mで、成虫は6月上旬から8月下旬にかけて連続的に見られた。

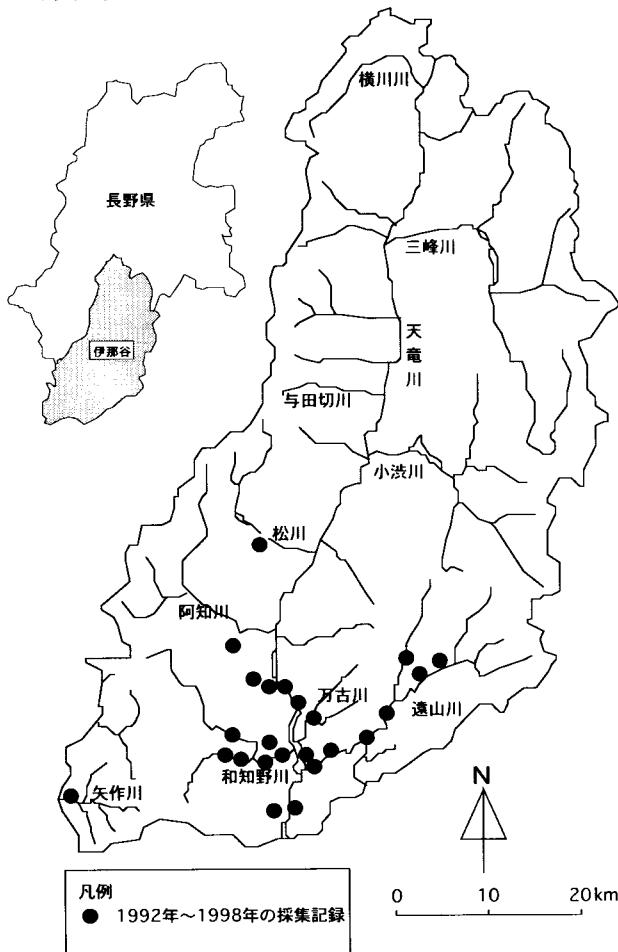


図1 伊那谷におけるラミーカミキリの分布

表1 伊那谷におけるラミーカミキリの記録

	採集地	標高(m)	採集年	採集日	採集者	保管場所
1ex.	天龍村為栗～平岡	300	1996	VII. 21	四方	ICM
1ex.	天龍村和知野川	360	1997	VIII. 22	四方	ICM
2exs.	天龍村小沢	300	1998	VI. 17	四方	ICM
2exs.	天龍村の瀬	320	1998	VI. 5	井原	ICM
1ex.	阿南町鴨目	450	1994	VII. 26	井原	-
1ex.	阿南町和知野	340	1995	VIII. 3	井原	-
3exs.	阿南町帯川	440	1997	VIII. 27	四方	ICM
1ex.	阿南町木曾畑	540	1997	VIII. 27	四方	ICM
1ex.	阿南町別当	340	1997	VIII. 22	四方	ICM
1ex.	阿南町和合上	600	1997	VIII. 27	四方	ICM
2exs.	阿南町和知野	360	1997	VIII. 27	四方	ICM
3exs.	阿南町帯川	460	1998	VII. 30	四方	ICM
1ex.	泰阜村大畑	500	1996	VI. 15	四方	ICM
1ex.	泰阜村我科	350	1996	VI. 15	四方	ICM
1ex.	泰阜村大恵曾	500	1997	VII. 5	四方	ICM
1ex.	泰阜村大畑	500	1997	VII. 5	四方	ICM
1ex.	泰阜村下り沢	360	1997	VII. 5	四方	ICM
1ex.	泰阜村田本	500	1997	VII. 5	四方	ICM
1ex.	下條村吉岡	450	1996	VII. 30	井原	-
2exs.	下條村吉岡	460	1997	VIII. 21	四方	ICM
1ex.	飯田市鼎切石	500	1992	VI. 15	久保田	ICM
1ex.	南信濃村飯島	330	1996	VIII. 17	井原	-
3exs.	南信濃村木沢	500	1997	VIII. 16	四方	ICM
3exs.	南信濃村小道木	500	1997	VIII. 16	四方	ICM
4exs.	南信濃村小道木～木沢	500	1997	VIII. 6	四方	ICM
2exs.	南信濃村須沢	700	1997	VIII. 16	四方	ICM
1ex.	上村大野	960	1998	VII. 27	四方	ICM
1ex.	上村老ノ林	640	1998	VII. 27	四方	ICM
1ex.	根羽村日向	540	1998	VII. 31	四方	ICM
1ex.	阿智村栗矢	610	1996	VIII. 9	井原	-

ICM: 飯田市美術館

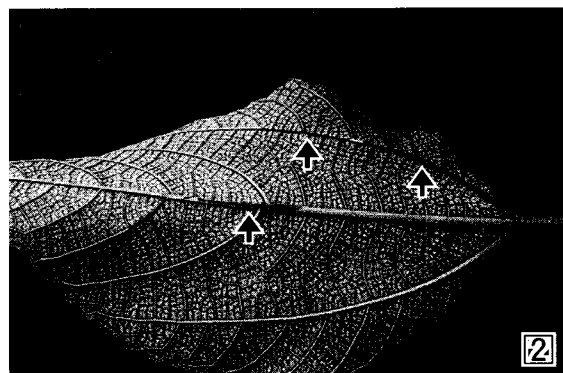


図2 1. カラムシの葉上のラミーカミキリ
2. カラムシの葉脈につけられた後食痕(↑部分)

天龍村, 阿南町, 泰阜村, 南信濃村の川沿いの低標高地(標高300m~400m付近)では, 路傍や田畑の土手などにカラムシ群落が多くみられ, これら群落のほとんどで成虫や後食痕が確認できた。上村, 飯田市, 阿智村などではカラムシ群落が少なくなり, またカラムシ群落があっても本種の成虫・後食痕ともにみられない地点が多かった。

このようなことから, 現在のところ伊那谷における土着の北限ラインは, 天竜川沿いでは飯田市付近, 遠山川沿いでは上村付近であると考えられる。

今回は, カラムシを目標にして成虫の探索を行った。しかし本種の成虫および幼虫は, カラムシ以外にムクゲやシナノキなども食することが報告されていることから(大野1985, 齊藤1992), カラムシ以外の植物を寄主として, さらに広く分布している可能性もある。阿智村と売木村では, ムクゲの葉について本種のものであると思われる後食痕を観察している。

近年の暖冬や猛暑などの高温は, 本種の生息にとって好条件に働くと考えられ, また本種の移動分散能力はかなり高いと考えられることから(高桑1997), 今後の分布拡大が注目される。また, 今回は未調査であったが, 木曾谷においても本種が進入していることが予想される。木曾谷での調査も必要であろう。

末筆ながら, ラミーカミキリの文献についてお世話

になった東洋大学の 大野正男先生, 本種の生態についてご教示くださった米沢市上杉博物館の永幡嘉之氏, 飯田市美術館へ標本を寄贈された飯田市の久保田賀津男氏にお礼申しあげる。

引用・参考文献

- 平井勇, 1997, 埼玉県でラミーカミキリを採集。月刊むし, 320, 41.
- 森川清志, 1998, 東京都および山梨県におけるラミーカミキリの追加記録。月刊むし, 334, 11.
- 大野正男, 1985, 日本産主要動物の種別文献目録(16)ラミーカミキリ(1)。東洋大学紀要教養課程編(自然科学), 29, 69-107.
- 齊藤明子, 1992, ラミーカミキリ属, 大林延夫他編「日本産カミキリ目検索図説」, 637. 東海大学出版会, 東京.
- 高桑正敏, 1997, ラミーカミキリの移動能力に関して。月刊むし, 322, 32-33.
- 和田武久, 1996, 千葉県千倉町におけるラミーカミキリの記録。月刊むし, 310, 32.
- 和田武久, 1997, 東京都あきる野市にラミーカミキリ生息。月刊むし, 322, 33.
- 吉沢尚広, 1992, 長野県におけるラミーカミキリの初採集記録。月刊むし, 261, 37-38.